

りんご新品種「ジョナゴールド」の特性

1 来 歴

ジョナゴールドはアメリカのニューヨーク農試で育成された品種で、交配親はゴールデンデリシャス×紅玉の3倍体品種で、交配は昭和18年に行われ、昭和43年に命名発表された。

わが国へは秋田県果樹試験場が昭和46年に導入したのが最初である。当場では昭和52年に穂木を導入し高接きを行って、その特性並びに地域適応性を検討してきたところ、栽培性、品質ともに優れているところから昭和57年に本県の推奨品種に決定された。

2 特性概要

樹勢はやや強〜中くらいで、枝しょうの発生はあまり多くなく、葉は大きい方である。花芽は着生しやすく、結果樹令に達するのが早いうえ豊産性で、隔年結果性は少ない。

開花期は本県の主要品種であるつがる、スターキングデリシャスと同時期である。ただし、3倍体品種のため受粉樹としては使用できない。

収穫期は10月下旬で、スターキングデリシャスとふじの中間であり、これまで、この時期に収穫できる優良品種がなかった本県としては、品種構成上極めて適した品種といえる。

果実は大きい方で平均果重が300g以下になることはなく、玉ぞろいも良い。果形は丸い円すい形であり、果こうが太い。

果色は鮮紅色に着色し、外観は極めて良い。果肉は淡黄白色で、肉質はやや粗い方であるが多汁であり、甘酸適の食味良好な品種である。ただし、収穫が遅くなると果皮表面がろう質になりべたついて、ほこりがつきやすくなり外観を損うので、収穫に当たっては遅くならないようにする。

栽培面からみると、スターキングデリシャスのようなジュンドロップは全くなく、紅玉のような収穫前の落果もほとんどない。樹冠上部の枝の果実は着色が極めて良いが、下枝の果実は着色不良になりやすい。また、ボルドー液散布による葉やけがしやすい。

病虫害でははん点落葉病に強い品種であるが、親の紅玉に似て黒点病の発生がみられる。

表-1 ジョナゴールドの特性

年次	開 花 期 月, 日			収 穫 期 月, 日			平 均 果 重 g	糖 度 %	酸 度 %
----	------------	--	--	------------	--	--	--------------	----------	----------

表-2 ジョナゴールドの地域による特性(昭56)

産地	採取日 月・日	調査日 月・日	調査 果数	一果重 g	有・無 袋の別	着色	外観	肉質	食味	糖度 %	酸度 %	硬度 ポンド
矢板	10.27	11.5	5	309	有	良	良	ややあらい	良	13.0	0.48	8.6
宇都宮	10.29	11.5	10	359	無	良	良	ややあらい	良	14.0	0.46	7.8
農試	10.23	10.26	10	352	無	中~良	良	ややあらい	良	14.3	0.50	8.1

注 農試の一果重は229個の平均

3 栽培上の留意点

3倍体品種のために受粉樹としては使用できない。枝しょうの発生があまり多くないので、樹が落ち着いてからは切り返しせん定をして枝しょうの発生を促す必要がある。樹冠下部の果実は着色不良になりやすいので、葉つみを十分行うことが大切である。ボルドー液による葉やけが発生し、落葉の恐れがあるので、散布に当っては晴天の日を選んで行うか硫酸銅の濃度をうすくして散布するなどの対策が必要である。

(担当者 果樹部 松浦永一郎 早田剛)